

食品加工

加工・業務用野菜の安定供給先として期待 ～吉良食品(株)(熊本県大津町)



1 組織の概要

組織名称	吉良食品株式会社
業種(事業内容)	食品製造業(乾燥野菜の製造販売。自社農場17ヘクタール)
代表者名	吉良 慶彦
所在地	熊本県菊池郡大津町室1647番地
連絡先	TEL:096-293-8778 FAX:096-293-4030
従業員数	67名(社員60名 パート7名)

2 取組の推移

1972年	熊一食品として乾燥野菜加工業創業
1988年	吉良食品株式会社設立、川辺工場操業開始
1993年	大林工場操業開始
1998年	室工場操業開始
2004年	農事組合法人九州吉良農場設立
2008年	真木工場操業開始
2010年	株式会社九州吉良農場設立(農事組合法人九州吉良農場組織変更)
2011年	吉良食品株式会社、株式会社九州吉良農場合併
2020年	全工場(室工場、真木工場、平川センター)でISO22000:2018認証取得

3 加工・業務用野菜の取組概要

(1) 基礎情報

主な野菜品目	キャベツ	ごぼう	にんじん	ほうれんそう	こまつな
主な用途	乾燥野菜				
年間使用量	500トン	350トン	350トン	300トン	300トン
国産使用比率	100%				
主な産地	熊本	鹿児島・宮崎	熊本	熊本	熊本
産地との契約	契約あり				
主な原料調達先	契約生産者 仲買	契約生産者 仲買	契約生産者	自社農場 契約生産者	自社農場 契約生産者
原料の受入形態	鉄コン・コンテナ・段ボール	鉄コン・コンテナ・段ボール	コンテナ	コンテナ	コンテナ
製品出荷先	生協・問屋・商社				

(2) 取組の特徴

生活協同組合や商社などに対し、旬の野菜にこだわり、キャベツ、ほうれんそうなどの葉菜類及びごぼう、にんじんなどの根菜類を原料とする乾燥野菜を製造・販売。

- ① 原材料の野菜は、熊本県を中心に「国産」を100%使用。
- ② 全仕入数量の2割程度を生産者と栽培契約を締結。収穫期には労働支援を実施。
- ③ 自社農場を17ヘクタール運営。
- ④ 栽培契約にあたっては、生産者との信頼関係を重視し、労働支援可能な大津町周辺を基本。
- ⑤ 各品目の栽培においては、加工スケジュールや産地の栽培適期等を勘案し、契約生産者へ栽培計画を提示するとともに、種苗の供給や栽培指導を実施。
- ⑥ 生産された野菜は、全量買い上げ。

(3) 国産原材料の使用理由

規格外品なども含め生産された野菜を余すことなく使用することは生産者の手助けに繋がると考えたことや「安全で美味しく手軽な食材」という需要者ニーズに応えるため、原材料の野菜は、「国産100%」を厳守している。

4 課題とその対応方針

【課題1】 生産及び原材料調達の安定化

- ① 現在2割程度の契約生産者を、将来的には5割程度まで増やしたい。
- ② 幅広い産地リレーが重要であり、九州以外の産地における栽培契約の締結を検討したい。
- ③ 栽培指導など産地の育成に力を入れたい。

【課題2】 作業の効率化

- ① 収穫作業は、現在すべて手作業で行っているが、自社収穫や労働支援の効率化のため、収穫機の導入が必要である。
- ② 選果場の整備が必要である。

【課題3】 需要者ニーズを踏まえた安定供給

- ① 冷蔵庫の容量不足を解消するため、増設が必要である。

5 取組の成果

仕入については、加工スケジュール等に基づく栽培計画の作成、自社農場の運営、契約生産者への労働支援及び産地リレーなどの取組みにより、原材料の野菜は安定的に調達できている。

販売については、「国産100%」厳守するなどの安心・安全への取組みが浸透する中、巣ごもり需要などが影響し、販売数量は伸びている。

6 今後の展開

乾燥野菜は、長期保存が可能で手軽に栄養補給ができ残渣も発生しないというメリットがある。コロナ禍においても、調理が手軽で栄養バランスを求める消費者ニーズに寄与した。

今後も、加工・業務用野菜の生産拡大を図るため、産地と信頼関係を構築し、栽培指導や労働支援などを通じ産地育成に取り組むたい。